

(8) 教職課程科目

2WW101 教職論

【到達目標】

- ・教職の意義及び教員の役割、教員養成の歴史、今日の教育の現状を知る。
- ・自主的、自発的な学習が促されるような教育課程・授業の作り方を知る。
- ・特別活動・生徒指導・教育相談など教科外指導の概要を知る。
- ・学級経営・学校経営・校務分掌のあり方を知る。
- ・教員の服務規程と研修のあり方を知る。
- ・教職に就くための方法に関する情報を積極的に収集し、自らの教職へ向けての進路を意欲的に切り開いていく。

【概要】 教職を志す学生を対象に、教員の役割と職務内容の学習・考察を通して、教職の意義に対する理解を深めることを目標とする。特に、今日の学校教育がおかれている現状と課題、自主的、自発的な学習が促されるような授業計画および内容、特別活動・生徒指導・教育相談など教科外指導の概要、学級経営・学校経営・校務分掌、教員の服務規程と研修のあり方といった項目を中心に講義し、教員の多様な仕事を知ること、教職の意義に対する各自の考えを深める。また、教職に就くために必要な情報や機会の提供も随時行い、教師になるためのキャリア構築を学生自らが遂行できるように支援する。

2WW102 教育原論

【到達目標】

- ・教育についての原理的な考え方や概念を理解する。
- ・教育の理念・思想・歴史を理解し、教育の本質に関わる「問いの仕方」を理解する。
- ・これらの基礎を理解した上で、現在の教育現象や教育問題を論理的に分析し記述できる力を身につける。

【概要】 教育に関する歴史と思想を概観することで教育の本質と理念を探り、現代社会における教育現象や教育問題に対する新たな視点や視角を得、理解を深めることができるようになることを目標とする。日本と西欧の教育史や様々な教育思潮の歴史の変遷をたどることで、近代公教育の理念と原則や、国家と教育の関係に関わる多様な捉え方を理解する。さらにそうした理解を踏まえて、今日の具体的な教育問題の事例に触れながら、それらを表層的にではなく本源的に分析・考察するための基礎的知識・理解と方法を示す。

2WW103 教育心理学

【到達目標】

- ・発達と教育に求められる心理学の基礎的知識を身につける。

- ・実際に学校内外の教育現場で生ずる様々な心理的諸問題を概観する。
- ・特別支援教育のための基本的な障害児心理の知識を実践的に学ぶ。
- ・子どもの心の発達についての教育心理学分野の様々な概念についての知識を深め、学校教育における教師の役割を問い直す。

【概要】 子どもの発達や学習、動機づけなどの教育に関わる心理学的なテーマについて学ぶ。学校内外の児童・生徒の成長を理解するために必要な教育心理学の基礎分野・発達、教授・学習、人格、社会性、測定・評価、特別支援、思考・認知、臨床・を概観することによって、現代の教育現場における諸問題についても考える。また、現代社会の中で生じている教育心理学的な諸問題について学び、対策と改善点を考察する。

2WW104 教育社会学

【到達目標】

- ・教育の組織や制度や経営の歴史と現在を理解するための教育学および教育社会学的な概念を理解する。
- ・教育学および教育社会学的な概念を用いて教育問題を発見し、分析し、記述できる力を習得する。

【概要】 家族や共同体や学校などにおける教育を、組織や制度や経営などの観点から捉え、それぞれの社会的な役割と機能および相互の構造的な連関を考察する。主として戦後日本の教育行政と学校経営の理念と組織・制度の歴史と現在、教育改革の動向などを扱う。また、近代学校の役割と機能について、近代社会の原理とされる競争の原理との関連で捉え、ひとり一人の成長・発達と社会統制・存続の両面から理解できるよう、内外の教育を参照しながら考察し、併せて、教育問題への多面的なアプローチの仕方を習得する。

2WW105 教育課程・教育方法論

【到達目標】

- ・教育課程の意義及び編成の方法に関する知識を習得し理解を深める。
- ・学習指導要領の意義と歴史に関する知識を習得し理解を深める。
- ・教育の方法及び技術に関する知識を習得し理解を深める。
- ・情報機器及び教材の活用に関する知識と技術を身につける。

【概要】 「教育課程の意義と編成の方法」および「教育の方法と技術」に関する諸課題を学ぶことで、自らカリキュラムと教育方法を創造していくことのできる自立した教員になるための基礎的な資質を培うことを目標とする。前者に関しては、学習指導要領を中心に、教育課程の編成主体とその変遷・現状・課題を取り上げる。また後者に関しては、教育方法の理念と原理、授業の技術論と教材論、授業における情報機器などの活用といった内容を取り上げる。

2WW201 英語科教育法 A

【到達目標】

- ・教室で教育活動を展開するのに必要な指導法と技術を身につける。
- ・生徒の能力を十分に引き出すには、どのような言語活動がよいかを理解する。
- ・学習指導要領の内容を踏まえた教材の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を目指す。

【概要】 中学校や高等学校の英語教師が知っていなければならない英語知識の体系化を踏まえて、教室で教育活動を展開するのに必要な指導法と技術を学び、その上で教材研究や学習指導案を作成して、模擬授業の場で実践を試みる。特に以下のことに重点を置く。 中学校や高等学校の英語の授業において生徒の能力を十分に引き出すための言語活動。 実際に授業で英語の指導をする際に効果的な指導法。 有機的に相互に関連した教材の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施。

2WW202 英語科教育法 B

【到達目標】

- ・主要な外国語教授法の特色を考察・検討し、それぞれの長所と短所を理解する。
- ・主要な教授法を踏まえた教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を行い、それぞれの教授法を身につける。

【概要】 これまでに提案された主要な外国語教授法を概観し、それぞれの特色を考察・検討する。これらの教授法を理解した上で、教授法を念頭に置いた教材研究や学習指導案の作成をして模擬授業に臨むことで教員として教授法を実践する。更に、生徒の役にもなり、その授業を受けることによって、個々の教授法を体験的に習得し、その長所と短所を考察する。この活動を通して、中学校や高等学校における効果的な望ましい外国語(英語)の教授法を探る。

2WW203 英語科教育法 A

【到達目標】

- ・中学校や高等学校における「英語の4技能を統合した授業」の理念と目的を知る。
- ・実際の教科書や英語の4技能を統合した授業の様態を写したビデオの分析等を通して、英語の4技能を統合した授業が具体的にどのように展開されているかを理解する。
- ・英語の4技能を統合した授業実践のためのさまざまな指導法を学び、教材研究、学習指導案作成、模擬授業実施を通して英語の4技能を統合した授業を実践する資質能力を養う。

【概要】 英語の4技能を統合した授業の実践のために必要な知識や実践力を修得させる。そのために、学習指導要領の理解を深め、教科書や授業ビデオの分析により英語の4技能を統合した授業の特徴を把握する。さらに、実際に教科書や副教材等の教材研究をした上で、

学習指導案を作成後、模擬授業を行い、自己評価やピア・フィードバックによる振り返りを行うことで、英語の4技能を統合した授業を実践する資質能力を体得する。

2WW204 英語科教育法 B

【到達目標】

- ・中学校や高等学校における「英語で行う英語の授業」の理念と目的を知る。
- ・実際の教科書や英語で行う英語の授業の様態を写したビデオの分析等を通して、英語で行う英語の授業が具体的にどのように展開されているかを理解する。
- ・英語で行う英語の授業実践のためのさまざまな指導法を学び、教材の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施を通して英語で行う英語の授業を実践する資質能力を養う。

【概要】 英語で行う英語の授業の実践のために必要な知識や実践力を修得させる。そのために、学習指導要領の理解を深め、教科書や授業ビデオの分析により英語で行う英語の授業の特徴を把握する。さらに、実際に学習指導案を作成後、英語で行う英語の授業の模擬授業を行い、自己評価やピア・フィードバックによる振り返りを行うことで、英語で行う英語の授業を実践する資質能力を体得する。

2WW205 宗教科教育法 A

【到達目標】

- ・日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要とされるキリスト教の基礎知識を身につける。
- ・キリスト教の正典である旧・新約聖書の内容を理解し、その上でキリスト教史、キリスト教倫理・キリスト教思想の特質を理解する。
- ・聖書の内容とキリスト教の特質を実際の授業としてどのように展開できるかを考察、研究する力を養う。

【概要】 日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要とされるキリスト教の基礎知識を身につけることを目標とする。キリスト教の世界観、旧約聖書と新約聖書の内容と相互の関係、イエス・キリストの存在の意味、教会史、キリスト教倫理などの要点を確認し、その上で、それらを聖書科の授業としてどのように展開し、指導するのかを考察する。

2WW206 宗教科教育法 B

【到達目標】

- ・日本のキリスト教主義学校において宗教科（聖書科）の教師となるために必要とされる日本の宗教史に関する基礎知識を身につける。
- ・日本人の宗教観について理解、考察する力を養う。
- ・日本におけるキリスト教教育の歴史を辿ることを通して、キリスト教主義学校が日本の

教育に果たした役割を歴史的に考察するとともに現状と課題を理解する。

【概要】 日本のキリスト教主義学校において宗教科(聖書科)の教師となるために必要な、日本の宗教史に関する知識・理解と現代日本人の宗教観について考察することを目標とする。それらに関する理解を深めるとともに、日本社会におけるキリスト教教育の歴史をたどることを通して、キリスト教主義学校の日本史上における役割、現状と課題、宗教科教員に求められていることについて考察する。

2WW207 宗教科教育法 A

【到達目標】

- ・ 宗教科(聖書科)の授業が組み立てられるようになる。
- ・ 学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、教材の選び方など、実際に使用されているものを参考にしながら習得する。
- ・ 聖書科の授業で取り上げられる諸項目(旧約聖書、新約聖書、キリスト教史、倫理、思想)の各々について模擬授業を行い、授業の方法を習得する。

【概要】 宗教科(聖書科)授業をどのように組み立て、展開するのかを学ぶことを目標とする。学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、教材の選び方等、実際に使用されているものを参考にしながら実践に即して研究していく。また、キリスト教主義学校において一般的に聖書科の授業で取り上げられる項目(旧約聖書、新約聖書、キリスト教の歴史、キリスト教倫理)の各々について研究した後、それらの中からいくつかのテーマを選んで模擬授業を行い、授業の方法を考察する。

2WW208 宗教科教育法 B

【到達目標】

- ・ 宗教科(聖書科)の授業が組み立てられるようになる。
- ・ 対象年齢に即した視聴覚教材の選び方、用い方を実際に使用されているものを参考にしながら習得する。
- ・ 視聴覚教材を用いた模擬授業を行い、授業の方法を習得する。

【概要】 宗教科(聖書科)授業をどのように組み立て、展開するのかを学ぶことを目標とする。学習指導案の作成の仕方、教科書と聖書の用い方、教材の選び方等、実際に使用されているものを参考にしながら実践に即して研究していく。とくに視聴覚教材の選び方と用い方を考える。同じ視聴覚教材でも対象となる生徒の年齢によって関心の的や理解度が変わるので、その点に留意しながら模擬授業により実践を試みる。

2WW209 国語科教育法 A

【到達目標】

- ・ 国語科の授業を相当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識

とアクティブ・ラーニングなどを取り入れた新しい授業方法を習得する。

- ・ 古典（古文・漢文）の定番教材を用いて、文法や有識故実の指導法から、ものの見方・感じ方・考え方を古典作品から読み取り、味わうための指導法の理論を身につける。

【概要】 国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた新しい授業方法を習得することを目標とする。古典（古文・漢文）の定番教材を用いて、文法や有識故実の指導法から、ものの見方・感じ方・考え方を古典作品から読み取り、味わうための指導法の理論と実際を検討する。

2WW210 国語科教育法 B

【到達目標】

- ・ 国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識とアクティブ・ラーニングなどを取り入れた新しい授業方法を習得する。
- ・ 現代文の定番教材を用いて、作品の教材としての新しい可能性についての考えを深めるとともに、その指導法の理論を身につける。
- ・ 社会の変化の中で言語能力と思考力の育成が国語科に一層求められている現状を知り、自らの考えを深める。

【概要】 国語科の授業を担当するために必要な、国語科の歴史と国語科指導法に関する基礎知識、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた新しい授業方法を習得することを目標とする。社会の変化の中で、言語能力と思考力の育成が国語科に一層求められている現状を考察し、その上で、道徳教育や文学的感性の教育に流れがちであった国語科教育を、現代文の定番教材を用いて検討し、作品の教材としての新しい可能性についても考える。

2WW211 国語科教育法 A

【到達目標】

- ・ 学習指導要領に示されている国語科（おもに古典）の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。
- ・ 学習指導案を正しく作成することができる。
- ・ 実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。
- ・ 他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいをおこなうことができる。

【概要】 学校現場と生徒の今をふまえて、教育と学校のあり方を探りつつ、それらをもとに、国語教育（おもに古典）の意味と方法を、中学・高校それぞれの場合について考察することを目標とする。教科書の教材を用いて、学生が模擬授業を行うが、その際、意味調べ、文法、口語訳だけで終わってしまうことがないよう、ことばのニュアンスや古典の基礎知識、時代背景、文学史、作中人物の心情などに注意し、古典を身近に感じられる授業を行えるようにする。学生間の討論を重ねることで、発表者の学生がよりよい授業を作り上げて行くよう心がける。

2WW212 国語科教育法 B

【到達目標】

- ・学習指導要領に示されている国語科(おもに現代文)の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。
- ・学習指導案を正しく作成することができる。
- ・実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。
- ・他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいをおこなうことができる。

【概要】 学校現場と生徒の今をふまえて、教育と学校のあり方を探りつつ、それらをもとに、国語教育(主に現代文)の意味と方法を、中学・高校それぞれの場合について考察することを目標とする。教科書の教材を用いて、学生が模擬授業を行うが、その際、一つのジャンルに偏らないよう、随想・小説・評論・詩や実用的文章に至るまで幅広く扱い、話すこと・聞くことの言語活動も、積極的に取り入れるようにする。学生間の討論を重ねることで、発表者の学生がよりよい授業を作り上げて行くよう心がける。

2WW213 社会・地理歴史科教育法

【到達目標】

- ・社会科・地理歴史科の歴史の変遷(学習指導要領の変遷)を理解する。
- ・学習指導要領の読み方を学び、指導要領の理念と方法を理解する。
- ・教科書をはじめとする教材の分析と構成の方法を身につける。
- ・単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)の方法を習得する。

【概要】 中学社会科(地理的分野・歴史的分野)と高校地理歴史科の授業を作るうえで必要な基礎的知識と理解を習得することを目標とする。社会科・地理歴史科の歴史の変遷を学習指導要領に即して学習するとともに、指導要領の読み方を学ぶ。教科書をもとにして、教材の分析と構成の方法を学ぶ。すぐれた授業実践例を検討する。単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)をグループごとに作成・発表し、全員で討論・検討する。

2WW214 社会・地理歴史科教育法

【到達目標】

- ・学習指導要領に示されている社会科(地・歴)・地歴科の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。
- ・授業を効果的に展開できるような教材を適切に選び開発することができる。
- ・学習指導案を正しく作成することができる。
- ・実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。
- ・他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいに基づくアクティブ・ラーニングをおこなうことができる。

【概要】 中学社会科（地理的分野・歴史的分野）と高校地理歴史科の授業を実践するために必要な技術・視点を身につけ、すべての受講者が、社会科・地理歴史科の授業を実際につくることができるようになることを目標とする。実際の教育現場での事例の紹介、教科書や具体的実物の分析と教材化の試み、学習指導案の作成、受講者全員による模擬授業の実施などを実践的に行う。模擬授業に際しては、授業者の授業に対する討論やリアクションペーパーの作成を全員で行うアクティブ・ラーニングを実施し、授業者はそれらを踏まえて反省レポートを作成することとする。

2WW215 社会・公民科教育法

【到達目標】

- ・社会科・公民科の歴史の変遷（学習指導要領の変遷）を理解する。
- ・学習指導要領の読み方を学び、指導要領の理念と方法を理解する。
- ・教科書をはじめとする教材の分析と構成の方法を身につける。
- ・単元の指導過程や授業構成（導入・展開・まとめ）の方法を習得する。

【概要】 中学社会科（公民的分野）と高校公民科の授業を作るうえで必要な基礎的知識と理解を習得することを目指す。社会科・公民科の歴史の変遷を学習指導要領に即して学習するとともに、指導要領の読み方を学ぶ。教科書をもとにして、教材の分析と構成の方法を学ぶ。すぐれた授業実践例を検討する。単元の指導過程や授業構成（導入・展開・まとめ）をグループごとに作成・発表し、全員で討論・検討する。

2WW216 社会・公民科教育法

【到達目標】

- ・学習指導要領に示されている社会科（公民）・公民科の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。
- ・授業を効果的に展開できるような教材を適切に選び開発することができる。
- ・学習指導案を正しく作成することができる。
- ・実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。
- ・他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいに基づくアクティブ・ラーニングをおこなうことができる。

【概要】 中学社会科（公民的分野）と高校公民科の授業を実践するために必要な技術・視点を身につけ、すべての受講者が、社会科・公民科の授業を実際につくることができるようになることを目標とする。実際の教育現場での事例の紹介、教科書や具体的実物の分析と教材化の試み、学習指導案の作成、受講者全員による模擬授業の実施などを実践的に行う。模擬授業に際しては、授業者の授業に対する討論やリアクションペーパーの作成を全員で行うアクティブ・ラーニングを実施し、授業者はそれらを踏まえて反省レポートを作成することとする。

2WW217 情報科教育法

【到達目標】

- ・情報科教育における基礎概念を学び、身につける。
- ・情報科教育における基本的な教育内容を学び、理解する。

【概要】 情報科の授業を担当するに当たって必要なことから、特にその基礎となる概念や基本的な教育内容を学習し、また、情報教育で生徒ひとりひとりの個性を活かし、その力を伸ばすにはどのような教育が必要か学ぶことを目標とする。具体的な内容としては、学習指導要領の変遷、および後期中等教育における情報科の位置づけ、情報教育で扱う学習内容の整理を行う。また、他教科との協力や関連なども考察し、コミュニケーションやプレゼンテーションの役割、情報発信における倫理教育などを学習する。

2WW218 情報科教育法

【到達目標】

- ・実践教育で活用できる指導方法を学び、情報科の授業で必要となる応用力を高める。
- ・模擬授業を通じて授業能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

【概要】 情報科の授業を担当するに当たって必要なことから、特に学校現場において、情報教育を実践するときに必要な応用力を養成し、また学校現場で活用できる情報教育の指導方法を検討し、実際に使える力を養うことを目標とする。具体的な内容としては、情報をメディアリテラシーの視点から分析し、高度情報通信社会の特徴や、その社会の「光」と「影」の認識、そこに潜む情報格差などについて考える。さらに、総合実習として教育実習で必要な授業能力やプレゼンテーション能力を養う。そのために、実際に使われている授業教材などを積極的に研究する。

2WW219 数学科教育法 A

【到達目標】

- ・中学校学習指導要領における各領域の目標と内容を理解する。
- ・指導要領にある「数学的活動」とは何かを理解する。

【概要】 中学校学習指導要領の解説編をもとに、中学校数学科の目標ならびに内容についての理解を深めることを目標とする。具体的には、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の4領域について、それぞれ、中学校学習指導要領の「目標」と「内容」を学習し、理解を深める。また、「目標」に含まれる「数学的活動」とは何かについて具体例をもとに考察する。評価規準に含まれる「数学の活用・応用」についても理解する。また、米国の教科書等を用いて、日本との比較等も行う。

2WW220 数学科教育法 B

【到達目標】

- ・高等学校学習指導要領について学び、基本概念を理解する。
- ・高等学校の数学科における各科目の構成を学び、その役割と目標を理解する。

【概要】 高等学校学習指導要領の解説編をもとに、高等学校の数学科の目標、各科目の構成（数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、数学A、B、ならびに「数学活用」）について学び理解を深める。特に、各科目の役割ならびに履修規定などについても学び理解を深める。さらに、それぞれの科目における「目標」「内容」について学習し、それらに関する理解を深める。また、米国・英国などの高校数学の教科書を用いて、日本との比較等を行う。

2WW221 数学科教育法 A

【到達目標】

- ・実際の授業を視聴し、効果的な授業運営について理解する。
- ・模擬授業を行い、実践的な数学科目の教育力を身につける。

【概要】 数学教育を実践的に学ぶことを目標とする。数学のすぐれた授業実践を視聴し、それらの授業のよさについて全員で話し合い、さらに、授業開発や模擬授業への計算機の活用についても議論し、模擬授業を実施する。主に、「数と式」「関数」とそれに関連する領域に力点を置く。

2WW222 数学科教育法 B

【到達目標】

- ・実際の授業を視聴し、効果的な授業運営について理解する。
- ・模擬授業を行い、実践的な数学科目の教育力を身につける。

【概要】 数学教育を実践的に学ぶことを目標とする。数学のすぐれた授業実践を視聴し、それらの授業のよさについて全員で話し合い、さらに、授業開発や模擬授業への計算機の活用についても議論し、模擬授業を実施する。主に、「図形」とそれに関連する領域に力点を置く。

2WW301 道德教育の理論と方法

【到達目標】

- ・学校での道德教育の可能性と限界について理解を深める。
- ・道德教育の歴史と思想について基本的な理解が出来る。
- ・道德性の発達についての基本的な考え方を理解する。
- ・道德教育の実践について必要な知識と技術を身につける。

【概要】 道德教育の理論的背景に関する理解を深めるとともに、「道德の時間」の指導を行う上で必要な指導案の作成と指導方法に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。

「道徳性」に関する様々な議論・理論を整理し、道徳教育の歴史的変遷と理論的背景を紹介する。ここでは、教育思想・哲学的アプローチと心理学的アプローチ（認知発達理論、役割取得理論など）を柱として構成する。次いで、具体的な道徳指導実践の事例と指導案作成作業を通じて理論と授業実践の関連を検討する。

2WW302 特別活動論

【到達目標】

- ・学級活動・生徒会活動・学校行事の目標と内容を中心に、その歴史的な成り立ちと変遷に関する見識を深める。
- ・学級や学年を基盤とする活動に必要な知識と技術を身につける。
- ・特別活動の基礎的な知識を身につける。
- ・学級活動、生徒会活動、学校行事の実際を視聴覚教材などの ICT 教育を基盤とし、特別活動の実践研究、学習指導案づくりを体得する。

【概要】 学級活動や生徒会活動、学校行事の実践的な指導方法を検討する。生徒の自発的活動を支援する指導方法について考察させるとともに、家庭や地域の人々と連携し、学校と社会とのつながりの中で、集団の一員としての自覚と自律性を育むための方法を事例を通して指導する。特別活動の学習指導案の書き方を実践的に学び、学級新聞や学級通信の作成を実際に行う。学級活動や学校行事のレクリエーションの基本と、生徒会活動の実施に必要な実践的知識を身につける。

2WW303 生徒・進路指導論

【到達目標】

- ・教科指導以外の教育活動にも注目し、学校教育をトータルに考えることができる。
- ・教育諸問題の現実を踏まえて生徒指導を構想することができる。
- ・労働を取り巻く現状を踏まえた進路指導を構想することができる。
- ・生徒指導・進路指導の歴史を理解する。
- ・テストの答案ないしはレポートの形式を理解する。

【概要】 「生活指導」および「進路指導」をの實踐を構想できるようになることを目標とする。生活指導に関しては、教師と生徒あるいは生徒相互の望ましい人間関係をどう築くか、集団の中で生徒の個性を埋没させずに認めあっていくにはどうするかといった基本的な内容に加え、不登校やいじめなどの現実的問題も取り上げる。また、進路指導に関しては、生徒が自分の適性を理解して自ら進路を決定するための支援と機会提供を、教育的営みとしてどのように進めていくかといったテーマを取り上げる。

2WW304 教育相談

【到達目標】

- ・教育相談の基礎となる心理学理論と教育臨床を習得する。
- ・教師に必要なカウンセリング・マインドを身につける。
- ・ロールプレイ、事例の紹介を適宜取り入れて行い、学校で実践的に用いられるカウンセリングの実際をアクティブ・ラーニングを取り入れることによって体得し、教育実践に役立つ知識とスキルを体得する。
- ・教育相談に必要な基礎的なカウンセリングの知識を身につけるとともに、教師・生徒関係のあり方を洞察する力を身につける。

【概要】 不登校、いじめ、非行等の問題行動の背景にある諸問題および発達障害について考察する。また、カウンセリングの基礎的な理論と技法を理解し、学校に不適応な生徒の理解と支援、保護者との連携を具体的に学ぶ。児童期から青年期への移行期にある子どもの問題行動の原因と社会的適応についての知識を習得し、どのような指導や援助が求められているのかを事例およびロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを取り入れることによって習得する。

2WW305 教育実習事前事後指導

【到達目標】

- ・「事前指導」では、教育実習に必要な基礎的知識・技能や心構えを身に付ける。
- ・「事後指導」では、教育実習の成果を教師としての力量形成につなげる。

【概要】 教育実習に必要な知識・技能や心構えを身に付け、また、実習の成果を教師としての力量形成につなげることを目標とする。実習の前に、教師としての諸活動に必要な実際の知識・技能（教育法規、教具、発声など）あるいは心構えを学ぶ。実習終了後には、少人数のゼミ形式で、各自の報告と相互検討を行い、今度の課題を確認する。

2WW401 教育実習

【到達目標】

- ・教育実践の実習を行なうことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師のあり方等を実践的に習得し、それらの知識と記述を身につける。

【概要】

学校現場で、教員として必要な知識・技能を習得することを目標とする。3～4週間、中学あるいは高校の現場で教育実践の実習を行う。そこでは、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師のあり方等を実践的に習得する。

2WW402 教職実践演習（中・高）

【到達目標】

- ・教育基本法をふまえ、教職の使命と責任及び教職の意義を正しく理解し確認する。
- ・子ども・同僚・保護者等との対人関係能力を身につけ、学校が抱える諸問題を適切に解決する力を獲得する。
- ・学級経営の理念と方法に関する理解と技術を習得する。
- ・教科の適切な指導法（教科等の知識や技能など）を身につける。
- ・教育実習をはじめとする教職課程で学んだことを振り返り、各自が到達しきれない点を適切に把握し補う。

【概要】 地域の公立中学校管理職から「教職の現状と課題」「これからの教員にとって必要な資質」について学ぶとともに、教育基本法をふまえ、教育実習を含めて教職課程で学んだことを報告、討論する。また「ソーシャルスキルの技法と実践」では学校が保護者や、大学を含む地域と連携して地域運営型学校（コミュニティスクール）を積極的に運営している事例を紹介し、ロールプレイを通して地域連携のあり方を体験的に学ぶ。「学級経営のあり方を振り返る」では学校目標や学級目標、学年目標等をふまえて学級経営のあり方を改めて問い直す。「教科の指導法を振り返る」では、教職課程の履修や教育実習を通して体得した教科の指導法を、模擬授業を通して検証する。報告・討論・レポート作成を中心とする演習で、各自が到達しきれない点を適切に把握し補う。

2WW501 特別支援教育と社会福祉

【到達目標】

- ・現在の社会福祉の流れの中での、介護等体験対象施設と施設利用者の概要を理解し、基本的な介護技術を理解することを目標とする。
- ・現在の社会福祉の動向について理解する。
- ・特別支援学校と社会福祉施設の概要について理解する。
- ・対象利用者や障害のある児童・生徒の、障害の内容や原因について理解する。
- ・基本的な介護技術を体験し、習得する。
- ・介護等体験にあたっての事前の準備や心構えについて理解する。

【概要】 介護とは何か（療育施設や福祉施設の成り立ちを含む）、対象施設の概要、施設利用者の概要、ADL（日常生活活動）とQOL（生活の質）・福祉用具の実際を含む、障害模擬体験による障害理解（視覚障害、聴覚障害、脳血管障害片麻痺、認知症など）、介護等体験に必要な基礎知識と基本的な介護技術等を学ぶ。介護をめぐる社会的背景や介護を必要とする人々の心身の状態について理解を深め、生活の質を向上させるための支援について考えていく。

(9) 学芸員課程科目

2VV101 博物館概論

【到達目標】

- ・現在の博物館を取り巻く諸事情・経緯などに関する基礎的知識について理解する。
- ・博物館に関する専門事項を学ぶ上での基礎となる能力を習得する。

【概要】 博物館は、人間と人間を取り巻く環境に関する様々な「もの」を収集し、保存・調査・研究して、公開・活用している。こうした博物館に関する基礎知識、すなわち、博物館の意義と役割について学ぶ。博物館の定義・種類・歴史、さらに博物館関係法令や博物館学の役割などを順を追って学んでゆく。

2VV102 博物館資料論

【到達目標】

- ・博物館資料に関する基礎的知識について理解する。
- ・博物館資料の収集、整理、調査・研究、展示、情報発信について、博物館運営全体の中でのそれぞれの役割を理解する。

【概要】 博物館はさまざまな資料を収集し、整理・分類・調査・研究し、保存・活用している。資料の収集では、購入・寄贈・借用・採集など具体的方法を学ぶ。資料の分類・整理では、多様な資料の分類と整理、そして調査・研究を経て、目録や図録の作成と情報発信に至るまでを学ぶ。なお、資料の保存は「博物館資料保存論」で、資料の活用は「博物館展示論」で主に展開される。

2VV103 博物館経営論

【到達目標】

- ・博物館経営の基本的な仕組みについて理解する。
- ・社会と博物館との関係の築き方について、博物館経営の視点からその現状と課題について理解する。

【概要】 博物館を運営するための基本的な仕組みを学ぶ。博物館運営の枠組は大きくは予算、組織（人事）、施設などからなり、その運営にあたっては、会社や学校などとは異なる博物館特有の問題がある。こうした点を踏まえながら博物館運営の特質を学ぶ。社会と博物館との関係の築き方については、展示はもとより、様々な関連イベント、利用者との関係づくりなど、様々な事業活動がある。博物館経営の視点からそれら事業活動の現状と課題について学ぶ。

2VV104 博物館資料保存論

【到達目標】

- ・博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識について理解する。
- ・博物館の資料保存・管理活動に関する専門事項を学ぶ上での基礎となる能力を習得する。

【概要】 温度・湿度・照明・大気などが資料の保存にどのような影響を与えるかを学び、同時に対策を考える。同じく生物が資料に与える害と対策を学ぶ。そして、資料保存の歴史と意義、さらに資料の修復や複製品の製作、屋外の文化財の保存や災害の防止と対策などを学ぶ。

2VV105 博物館展示論

【到達目標】

- ・博物館の展示活動に関し、その理論や実際の事業の流れ等を踏まえながら、体系的に博物館展示の基礎知識について理解する。
- ・展示を実施するという視点に立ち、情報発信を行うにあたって自分なりに持つべき見解を養う。

【概要】 博物館のもつ外的事業の軸となる展示活動について、企画・立案、資料の選択、展示案の確定、解説プレート・図録の作成、会場の設営、展示の実行、関連事業、広報、後片付けなど、一つの展示達成のための作業を逐一詳しく学ぶ。同時に関連事業やイベントの在り方、ボランティアの活用など、市民参加の展示活動の実態についても学ぶ。

2VV106 博物館教育論

【到達目標】

- ・博物館における「学び」や学芸員の教育活動について、その理論や実践に関する知識と方法を理解する。
- ・教育一般と学校教育の在り様を踏まえながら、博物館の教育機能に関する基礎的知識を理解する。

【概要】 博物館における教育の意義と理念を学ぶ。学びの場としての博物館は、実物を見ることができること、体験できることという利点をもっている。学校教育との連携や多様化しつつある教育のあり方の中で、博物館が担うべき部分の工夫と創造を模索する。

2VV107 生涯学習論

【到達目標】

- ・生涯学習社会・社会教育が果たす意義とその構築に向けての課題について理解する。
- ・生涯学習社会が実現していくための法制度・行政・施策の実際を踏まえながら、家庭教

育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等を理解するための基礎的な認識と能力を習得する。

【概要】 生涯学習の意義を考えつつ、老人・主婦・サラリーマン・学生など全ての人々の学習の場のあり方を、国内外の具体例を検証し、学ぶ。また、公民館職員・図書館司書・博物館学芸員など社会教育に携わる人々の役割と使命を考える。

2VV108 博物館情報・メディア論

【到達目標】

- ・博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解する。
- ・博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を習得する。

【概要】 博物館における情報・メディアの意義および情報発信の課題を学ぶ。併せて、さまざまな情報を掴みとること、および、視覚をはじめ人間のもつ五感に訴える効果的・効率的な情報機器の活用法を学ぶ。これらの学習をとおして博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。

2VV201 博物館実習 1

【到達目標】

- ・資料の取り扱い方の基本を中心として学び、学芸員の行う諸業務について体験的に習得する。
- ・様々な館種の博物館見学を通し、現在の博物館の実態と課題について体験的に習得する。

【概要】 資料の取り扱い方に関する基本的知識・技術の習得を目標として、巻物や掛け軸遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。

2VV202 博物館実習 2

【到達目標】

- ・博物館実習 1 を踏まえ、資料の取り扱いをとおした博物館の諸事業について学び、学芸員の行う諸業務を体験的に習得する。
- ・様々な館種の博物館見学を通し、現在の博物館の実態と課題について体験的に習得する。

【概要】 博物館実習 1 の授業内容を踏まえ、資料の取り扱いをとおした博物館の諸事業、たとえば展示の企画立案・広報・関連事業などの諸業務の遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。

2VV203 博物館実習3

【到達目標】

- ・ 館園実習により、博物館学芸員の業務の実際を現場体験し、職務遂行にあたっての実践的能力を習得する。
- ・ 館園実習での現場体験を通し、現在の博物館の置かれた諸問題を体験的に習得する。

【概要】 本授業は、実際の博物館現場における7～10日程度の博物館実務実習（館園実習） 学内における事前・事後指導の授業、 個別の指導によって構成される。博物館実務の一端は「博物館実習 1・2」で習得しており、この授業では実際の博物館の現場において、諸業務の実際を現場体験することで、運営実務の実践的能力を習得する。実習期間中は担当学芸員の指導を受けつつ実務を学び、実習ノートを作成して担当学芸員に提出し、その指導を受け、翌日には改善するなど積極的に学ぶようにする。学内においても実習効果を高めるため事前・事後指導の授業、個別指導を行う。

(10)外国人留学生特別科目

(教育目標)

- ・外国人留学生が大学での学習に必要な日本語の運用能力を身につける。
- ・外国人留学生が大学での勉学に必要な英語の Reading、Listening、Speaking、Writing の力をバランスよく習得する。
- ・外国人留学生が日本の諸事情を学習することにより、日本に対する理解を深める。

2ZZ101 日本語 (入門)

【到達目標】

外国人留学生が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得する。

【概要】 外国人留学生が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語 (入門)」は、入門として受講者の日本語能力を考慮し、運用能力の向上を目指す。受講者個々の理解度を確認しつつ、2名の担当者が相互に連絡・調整を行いながら進める。

「日本語 (応用)」とともに第一外国語の必修単位である。週4コマの授業。

2ZZ102 日本語 (応用)

【到達目標】

外国人留学生が大学での学習に必要な日本語運用能力を高める。

【概要】 外国人留学生が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語 (入門)」で学んだことを応用して、さらに日本語の運用能力の向上を目指す。専門科目等で必要な発表、プレゼンテーションの技術も修得する。受講生個々の理解度を確認しつつ、担当者相互に連絡・調整を行いながら進める。

「日本語 (入門)」とともに第一外国語の必修単位である。週4コマの授業。

2ZZ103 英語初級

【到達目標】

外国人留学生が大学での勉学に必要な英語の Reading、Listening、Speaking、Writing の力をバランスよく習得する。

【概要】 外国人留学生が英語の Reading、Listening、Speaking、Writing の力をバランスよく習得することを目標とする。受講者の英語力に合わせ、興味深い教材を使用して、読解力、表現力等の育成を目指す。「英語初級」とともに第二外国語の必修単位である。週2コマの授業。

2ZZ104 英語初級

【到達目標】

外国人留学生在大学での勉学に必要な英語の Reading、Listening、Speaking、Writing の力をバランスよく高める。

【概要】 外国人留学生在英語の Reading、Listening、Speaking、Writing の力をバランスよく習得することを目標とする。「英語初級」で学んだことを踏まえて、さらに英語の運用能力の向上を目指す。受講者の英語力、理解度を確認しながら、興味深い教材を使用して、読解力、表現力等の育成を目指す。

「英語初級」とともに第二外国語の必修単位である。週2コマの授業。

2ZZ105 日本事情 A

【到達目標】

外国人留学生在日本語で日本の社会について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。

【概要】 「人間社会の仕組みと問題」をテーマとし、外国人留学生在日本語で日本の社会について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。

総合教養科目の「人間社会の仕組みと問題」領域の2単位に代えることができる。

2ZZ106 日本事情 B

【到達目標】

外国人留学生在日本語で日本の歴史について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。

【概要】 「人間の知的生産」をテーマとし、外国人留学生在日本語で日本の歴史について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。

総合教養科目の「人間の知的生産」領域の2単位に代えることができる。

2ZZ107 日本事情 C

【到達目標】

外国人留学生在日本語で日本の思想、宗教、日本人のこころ等について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。

【概要】 「人間自身を知る」をテーマとし、外国人留学生在日本語で日本の思想、宗教、日本人のこころ等について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本

語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。

総合教養科目の「人間自身を知る」領域の2単位に代えることができる。

2ZZ108 日本事情D

【到達目標】

外国人留学生が日本語で日本の文化について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。

【概要】 「人間の知的生産」をテーマとし、外国人留学生が日本語で日本の文化について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。

総合教養科目の「人間の知的生産」領域の2単位に代えることができる。